

- 《履修上の留意事項》1. 「ソーシャルワーク実習（免除）」となる介護実習履修者も、本科目を履修すること。
 2. 「ソーシャルワーク実習」の免除取り消しによる履修者は、本科目の単位取得済みでも、必ず受講（聴講）すること。

《担当者名》 巻 康弘maki@hoku-iryo-u.ac.jp 近藤 尚也 志水 幸 大友 芳恵 福間 麻紀 宮本 雅央
 片山 寛信
 (主担当者、○副担当者)

【概要】

ソーシャルワーク実習・実習指導（社福）は、本科目とソーシャルワーク実習、3年次に開講するソーシャルワーク実習、ソーシャルワーク実習指導 からなる連動科目であり、社会福祉士国家試験受験資格取得のための必修科目である。

ソーシャルワーク実習（社福）において、社会福祉士指定科目等で獲得した知識・技術を統合し、価値と倫理に基づく支援を行う実践能力を養うために、事前教育、訪問指導、事後教育が行われる。

実習指導の内容は、実習施設との実習契約に基づき、北海道ブロック統一のソーシャルワーク実習(社福)教育・指導に関する指針に沿って展開する。

【学修目標】

ソーシャルワーク実習指導の学習目標は、ソーシャルワーク実習の学習目標と連動する。ソーシャルワーク実習と実習指導を通じ、ソーシャルワーク教育学校連盟北海道ブロックにおいて標準化した統一の実習評価表に基づく以下の点の獲得に向け、実習分野・施設機関、利用者、地域社会等、ソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術が説明ができることなどが目指される。(個別実習の学習目標・実習プログラムは、教員、実習指導者、学生で協議し、設定する。)

利用者やその関係者（家族・親族、友人等）、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係を形成できる。

利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との援助関係を形成することができる。

利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価ができる。

利用者やその関係者（家族・親族、友人等）への権利擁護活動とその評価ができる。

多職種連携及びチームアプローチの実践的理解ができる。

当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけの現状が説明できる。

地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発ができる能力を育てる。

施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理の理解を含む。）を説明できる。

社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任を遂行することができる。

ソーシャルワーク実践に求められる技術を実践的に理解することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション 全体指導 ソーシャルワーク実習の意義と目的	<ul style="list-style-type: none"> ・本実習・実習指導の意義と目的を説明できる。 ・本学実習教育におけるSW実習の位置付けが説明できる。 ・年間計画・評価方法・実習前評価システムの説明ができる。 ・ソーシャルワーク実習の実習候補施設・機関を事前に確認し、関心・問題意識を説明することができる。 	巻、近藤、福間、宮本 片山
2	ソーシャルワーク実習に向けた関心の明確化と実習配属施設の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク実習の実習配属先の最終調整を行うことができる。 ・施設見学における諸注意と、質問レポートの準備について説明できる。 	巻、近藤、福間、宮本 片山
3	施設見学(クライアントや地域の状況の理解)	<ul style="list-style-type: none"> ・見学先施設のクライアントや職員への質問を通じて、生活上の課題(ニーズ)や地域の状況について説明することができる。 ・課題(ニーズ)を産み出している社会の問題に気づくことができる。 ・見学先施設におけるソーシャルワークの実践が例示できる。 	志水幸、大友、巻、福間、宮本、近藤、片山
4	実習委託契約とCBT(知識試験)	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク実習・実習指導の授業計画等が説明できる。 	巻、近藤、片山、宮本

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		<ul style="list-style-type: none"> ・実習の構造(実習三者・四者関係など)と実習委託契約の仕組みについて説明できる。 ・実習評価表と実習到達目標の考え方が説明できる。 ・CBT(知識試験)の実施方法が説明できる。 ・実習コンピテンス・アセスメントと自己学習計画書の記載方法が説明できる。 	
5	実習グループオリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・実習グループでの展開について説明できる。 ・ソーシャルワーク実習に向けた関心をプレゼンテーションできる。 	志水幸、大友、巻、福岡、宮本、近藤、片山
6	社会福祉士OSCE(客観的臨床能力試験)の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士OSCEの概要が説明できる。 ・OSCEスケジュールが説明できる。 ・試験項目の説明ができる。 	巻、大友、福岡、宮本、近藤、片山
7	クライアントの生活上の課題(ニーズ)と地域の状況の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・文献や事前訪問等によりクライアントの生活上の課題(ニーズ)について説明ができる。 ・地域の状況理解に向け収集すべき情報や視点が説明ができる。 	志水幸、大友、巻、福岡、宮本、近藤、片山
8	クライアントの生活上の課題(ニーズ)とソーシャルワーク理解	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設・機関で出会うことが想定されるクライアントや地域の状況を説明することができる。 ・生活上の課題(ニーズ)を説明できる。 ・文献や事前訪問等により分野特性を踏まえたソーシャルワークについて説明ができる。 	志水幸、大友、巻、福岡、宮本、近藤、片山
9	クライアントの生活上の課題(ニーズ)とソーシャルワーク理解	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設・機関で出会うことが想定されるクライアントの生活上の課題(ニーズ)を説明できる。 ・文献や事前訪問等により分野特性を踏まえたソーシャルワークについて説明ができる。 	志水幸、大友、巻、福岡、宮本、近藤、片山
10	CBT(知識試験)	<ul style="list-style-type: none"> ・CBT(知識試験)の実施・実習前に獲得すべき知識の習得状況を明確化できる。 	近藤、片山、宮本
11	社会福祉士OSCE(客観的臨床能力試験)	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士OSCE(客観的臨床能力試験)の実施 ・実習前に獲得すべき技術の獲得状況を明確化できる。 	大友、巻、福岡、宮本、近藤
12	実習計画書の作成指導	<ul style="list-style-type: none"> ・OSCEとCBTの結果返却とフィードバックを通じ、さらに獲得すべき課題が説明できる。 ・実習生の問題意識・自己の達成課題を書くことができる。 ・実習評価項目の達成に向けた展開と方法を列挙することができる。 	志水幸、大友、巻、福岡、宮本、近藤、片山
13	実習計画書の作成指導	<ul style="list-style-type: none"> ・実習生の問題意識・自己の達成課題を書くことができる。 ・実習評価項目の達成に向けた展開と方法を列挙することができる。 ・ソーシャルワーク実習・担当者会議の実施方法が説明できる。 	志水幸、大友、巻、福岡、宮本、近藤、片山
14	OSCE 追・再試験	<ul style="list-style-type: none"> ・インテーク面接を適切に実施することができる。 ・アセスメント報告に適切に取り組むことができる。 ・インテーク面接場面を実習体験場面とした実習日誌を記載することができる。 不合格者、未受験者の追再試験。	大友、巻、福岡、宮本、近藤、片山
15	CBT 追・再試験と先輩学生への実習体験の聴き取り	<ul style="list-style-type: none"> ・CBT不合格者、未受験者・・・追再試験。 ・CBT合格者・・・先輩学生への実習体験の聴き取り。 ・実習に向けた実習課題(行動目標)と達成方法を説明することができる。 ・実習施設の特性や実習行動目標に対する体験例を先輩に質問し、実習行動計画を書くことができる。 	志水幸、大友、巻、福岡、宮本、近藤、片山
16	ソーシャルワーク実習・担当者会議	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク実習・の実習指導者と学生、教員による打合せ会。 ・実習報告会の感想、実習計画書をもとに問題意識と 	志水幸、大友、巻、福岡、宮本、近藤、片山

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		実習課題を説明することができる。 ・SW実習 と実習 の各実習での達成目標と実習プログラムについて、2機関の実習指導者と共有し、説明することができる。	
17	ソーシャルワーク実習報告会(1～3年生合同)	・ソーシャルワーク実習報告会参加を通じて、人と環境の間に生じている生活上の課題を説明することができる。 ・ソーシャルワーカーとして有すべき価値・倫理をもとにした実践について説明できる。	志水幸、大友、巻、福岡、宮本、近藤、片山
18	ソーシャルワーク実習報告会(2～3年生合同)	・ソーシャルワーク実習報告会参加を通じて、人と環境の間に生じている生活上の課題を説明することができる。 ・ソーシャルワーカーとして有すべき価値・倫理をもとにした実践について説明できる。	志水幸、大友、巻、福岡、宮本、近藤、片山
19	クライアントの生活上の課題(ニーズ)とソーシャルワーク理解	・実習施設・機関で出会うことが想定されるクライアントの生活上の課題(ニーズ)を説明できる。 ・文献や事前訪問等により分野特性を踏まえたソーシャルワークについて説明ができる。 ・実習や事前訪問にあたっての留意事項について説明することができる。 ・プライバシーの保護と守秘義務が説明できる。 ・実習における感染対策が説明できる。	志水幸、大友、巻、福岡、宮本、近藤、片山
20	実習日誌と各種様式(アセスメントシート、プロセスレコード等)	・実習記録の記載方法が説明できる。 ・プロセスレコードの記載方法が説明できる。 ・実習体験(個別・地域)で活用することが想定されるアセスメントシートやプロセスレコードの記載方法が説明できる。	志水幸、大友、巻、福岡、宮本、近藤、片山
	(事前訪問)	ソーシャルワーク実習 施設を訪問。 ・実習計画書の説明を行う。 ・実習での留意事項を確認する。 ・実習での感染対策方法を確認する。	
20	プライバシー保護と守秘義務・感染対策教育		志水幸、大友、巻、福岡、宮本、近藤、片山
21	巡回指導(訪問指導)	・実習での取り組み内容を説明の上、必要な実習スーパービジョンを行うことができる。 (SW実習 ・免除の学生は別途指示する)	志水幸、大友、巻、福岡、宮本、近藤、片山
22	実習体験や実習記録を踏まえた実習課題の整理と実習中間総括レポートの作成指導	・実習体験や実習記録を踏まえた実習課題の整理 ・実習におけるディレンマ体験などの確認 ・実習中間総括レポートの作成指導、お礼状の指導。	志水幸、大友、巻、福岡、宮本、近藤、片山
23	実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理と実習中間総括レポートの作成指導	・実習体験や実習記録を踏まえた実習課題の整理 ・実習におけるディレンマ体験などの確認 ・実習中間総括レポートの送付指導	志水幸、大友、巻、福岡、宮本、近藤、片山

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

2022年度 ソーシャルワーク実習 ・ソーシャルワーク実習指導 ・実習前評価システムの評価基準
ソーシャルワーク実習 とソーシャルワーク実習指導 は連動科目のため単位認定も原則連動する。

1. ソーシャルワーク実習 の評価基準

実習評価(実習施設・機関による評価) 50点。

実習評価・中間総括(学生の自己評価と所見) 10点。

実習日誌・訪問指導記録・実習で取り組んだ記録物 40点。

2. ソーシャルワーク実習指導 の評価基準

参加態度 10点。

OSCE、CBT評価 50点。

記録物（ひとつでも提出されていない場合は0点とする） 40点。

3. ソーシャルワーク実習前評価システムの評価基準

次のすべての項目を満たした場合に実習配属とする。（基準を満たさない場合、実習配属を中止する）

OSCE、CBT（OSCE・CBTの不合格者には再チャレンジの機会を設定する。）

・OSCE：合格基準 3試験項目の得点が各々6割以上。

・CBT：合格基準 6割以上。

期間内に提出を指示された下記すべての記録物の提出。

実習前までの出席状況

・ソーシャルワーク実習指導 に7割以上、出席しているもの。

・ソーシャルワーク演習 に7割以上、出席しているもの。

ソーシャルワーク実習指導 を聴講する者（ソーシャルワーク実習 の免除取り消し）の実習前評価は、ソーシャルワーク実習 に位置付け、評価基準は、本科目同様とする。）

【教科書】

『2022年度版 社会福祉実習要綱』北海道医療大学看護福祉学部臨床福祉学科。

『2022年度版 社会福祉実習の手引き～分野別実習プログラムの実際～』北海道医療大学看護福祉学部臨床福祉学科。

【参考書】

必要に応じて提示する。

【備考】

1. 社会福祉士指定科目「ソーシャルワーク実習指導（社福）」の一部に該当する科目である。

2. 社会福祉士受検資格取得に必要な指定科目の履修を前提とした授業内容とする。

【学修の準備】

1. 毎回次の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。（50分）

2. 社会で起きている事象・ニュースを確認し、発言できるようにしておくこと。（30分）

3. 特に実習を行う分野、機関に関連することは実習の手引きやインターネットにて調べること（80分）。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2,3

【実務経験】

巻 康弘（社会福祉士）、大友 芳恵（社会福祉士）、福岡 麻紀（社会福祉士）、宮本 雅央（社会福祉士・精神保健福祉士）、近藤 尚也（社会福祉士）、片山 寛信（社会福祉士）。

【実務経験を活かした教育内容】

社会福祉施設・機関、医療機関でのソーシャルワーカー・社会福祉士としての、実践経験を通じて得た、価値・知識・技術・態度などを活用し、実践的な教育を行う。